

平成18・19年度 熊本県教育委員会指定

「豊かな体験活動推進事業」  
～長期宿泊体験推進校～

# 研究紀要

研究主題

「豊かな心を育み、たくましく生きる児童の育成」  
～人・自然・文化との関わりから学ぶ体験学習を通して～



天草市立下田北小学校

## はじめに

本校は、洋々とひろがる天草灘に護られ、山洲岳の麓に位置している。海と山の自然に恵まれた環境で、32人の子どもたちは元気いっぱいにご過ごしている。また、校区には白鷺が傷を癒したと伝わる下田温泉がある。

さて、本校は平成18・19年度に熊本県教育委員会指定（文科省委託事業）「豊かな体験活動推進事業」～長期宿泊体験推進校～を受け、2年間の研究実践に取り組んできたところである。

この取り組みを通して、子どもたちには、地域の人・自然・文化等にかかわり合いながら豊かな体験活動を通して、心豊かで、生きぬく力を身につけてほしいと願った。

研究に取り組む際、まず児童理解から出発した。

○素直で明るく、活動的な児童が多い。

○少人数なので、家庭的な雰囲気があり、上級生も下級生の面倒をよくみている。

○学校・家庭・地域とも児童に目が届きやすい。

○幼い頃からの人間関係が固定化している。

などの生活面での実態等について全職員で共通理解を図った。この生活面の現状を踏まえ、一人一人の学力向上を図ることこそ、本校教育目標「心豊かで、生きる力を身につけた児童の育成」の具現化そのものであると捉えた。

その具現化の方策の一つとして、家庭や地域社会の協力を十分得た上で、学校教育において様々な体験活動に取り組むことにした。

様々な体験活動のなかで、本校が重視した活動は、人・自然・文化等に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。子どもたちは、具体的な体験や事物との関わりをよりどころにして、感動したり、驚いたりしながら、「なぜ、どうして」と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいく。このような体験を計画的、意図的に積み重ねることによって「生きる力」をはぐくむ基礎となる。

子どもたちは、これらの体験活動を通じて、自分の肌で人の温もりや自然のすばらしさ等にふれることができた。通学合宿では、日頃行っていない食事の準備や洗濯などを苦労しながら体験する場面があった。グループで協力し、知恵を出し合い生活していた。この苦労体験こそが貴重である。

様々な体験活動から学んだことが「心豊かで、生きる力」の糧となり、子ども一人一人がたくましく成長することを期待したい。

天草市立下田北小学校長 荒尾 隆 明

# I 研究の概要

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題

「豊かな心を育み、たくましく生きる児童の育成」  
～人・自然・文化との関わりから学ぶ体験学習を通して～

### (2) 主題設定の理由

#### ア 時代の要請より

近年、子ども達を取り巻く環境は急激に変化している。10年ほど前に登場したインターネットを使うと、世界中の様々な情報をいつでも得ることができ、携帯電話やメールで手軽に友達とコミュニケーションをとることができるようになった。

その反面、犯罪の低年齢化、引きこもりやニートといった社会とうまく関わることのできない若者の増加、体力低下といった問題も起きている。規範意識・モラルの低下は日本社会が解決すべき問題であり、子どもを良い方向に育てていこうとする学校は、ますます大きな役割を担っていくものと考えられる。

このような中、豊かな自然環境や地域の方々と多く関わる体験活動を通して、豊かな人間性・社会性を育てていこうと考えた。

#### イ 校区・児童の実態より

下田の人々は昔から、山や川、海といった自然や温泉や魚などの恵みと上手に関わり、利用しながら生活を営んできた。しかし、今の子ども達は自然と関わる機会がとても少ない。また周りに豊かな自然や資源があることを普通のこととしてとらえ、「下田のよさ」としてとらえている児童は少ない。

地域に根ざした多くの体験の活動を通してコミュニケーション能力・問題解決能力などの力とともに、自分たちのふるさとを愛する心を育てていきたい。

#### ウ 「豊かな体験活動推進事業」～長期宿泊体験推進校～との関連

下田北小学校は18・19年度熊本県教育委員会指定「豊かな体験活動推進事業」～長期宿泊体験推進校～を受けている。児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むためには、成長段階に応じて、ボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動をはじめ様々な体験活動を行うことが極めて有意義である。

### (3) 研究主題のとらえ方

研究主題にある「豊かな心」、「たくましく生きる」の定義を本校では以下の通りとする。

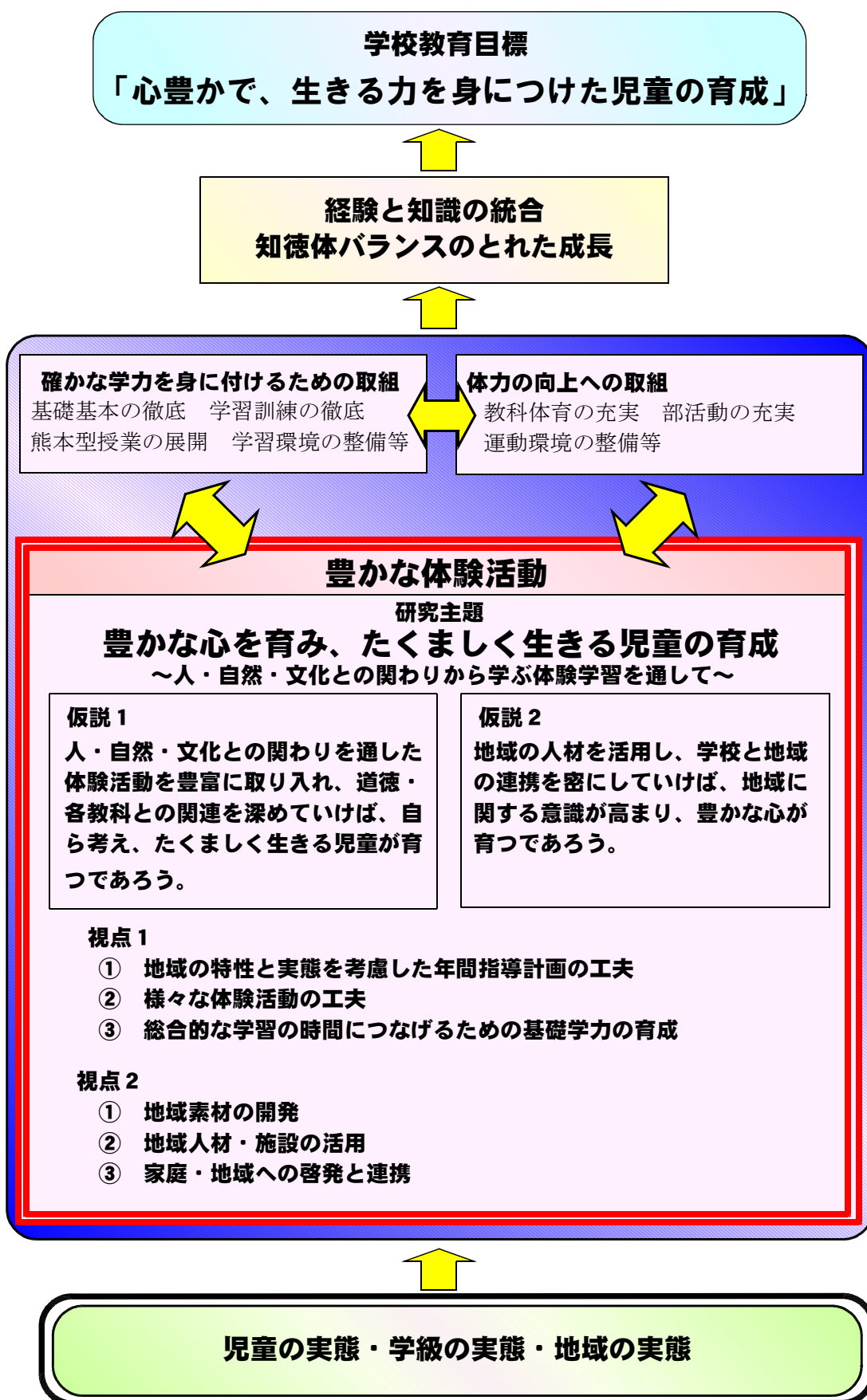
#### 【豊かな心】とは

「人間や自然のすばらしさに感動し、生命を大切に作る心」「相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心」「自ら進んで活動しようとする心」とする。

#### 【たくましく生きる】とは

「何事にも継続して取り組んでいく力。」「基本的生活習慣を身につけること」「自らの目標に向かって実践する態度」とする。

(4) 構想図



## 2 研究の内容

### (1) 研究の仮説

【仮説1】人・自然・文化との関わりを通じた体験活動を豊富に取り入れ、道徳・各教科との関連を深めていけば、自ら考え、たくましく生きる児童が育つであろう。

【仮説2】地域の人材を活用し、学校と地域の連携を密にしていけば、地域に関する意識が高まり、豊かな心が育つであろう。

### (2) 研究の視点

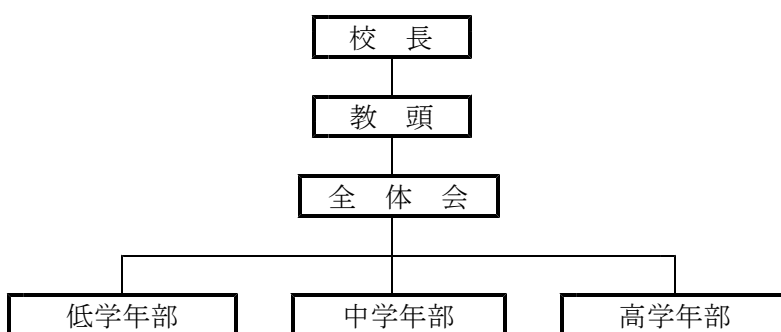
仮説1に対して

- ① 地域の特性と実態を考慮した年間指導計画の工夫
- ② 様々な体験活動の工夫
- ③ 総合的な学習の時間につなげるための基礎学力の育成

仮説2に対して

- ① 地域素材の開発
- ② 地域人材・施設の活用
- ③ 家庭・地域への啓発と連携

### (3) 研究組織



## II 研究の実際

### 1 「通学合宿」の取組

(1) 昨年度の成果と課題および今年度の変更点

【平成18年度の成果】

- ・平成14～17年度まではPTA主催で、4年生以上の希望者ということもあり、参加しない児童もいたが、18年度は学校とPTAとの共催とし、教育課程上に位置付け、4年生以上の全員参加で実施することができた。
- ・炊事・洗濯などは児童により経験の差がとても大きい。ほとんど家庭で経験したことがない児童もいた。時間がかかったり上手に出来ない部分もあったが、全員が自分の仕事を持ち、共同生活を送る経験を持てたことは家族の役割を考えたり、家族へ感謝の気持ちを持つ上で貴重な経験となった。
- ・最終日には「下田っ子ふれあいデー」を設け、通学合宿に参加しない1～3年生も地域の方とふれあうことができた。地域の方と一緒に作った灯籠は、8月の地域伝統行事「灯籠流し」のとき川に流した。子ども・教師全員が地域の行事「灯籠流し」に参加することができた。

【平成18年度の課題】

- ・活動内容が多く、時間的に余裕がない計画であった。計画通りに活動を進めようとするため、どうしても保護者が手を出しすぎてしまう傾向があった。計画や支援体制を見直し、子ども達の主体的な活動場面を充実させる必要があった。
- ・通学合宿の目的等については、年度当初保護者等に説明して十分理解を得るようにする必要があった。

【平成19年度の変更点】

- ・児童の実態・身に付けさせたい力を考え、学校が中心となり通学合宿の計画・運営を行う。保護者には、道具の運搬やバーベキュー後の火の始末など必要な場面で協力していただく。
- ・炊事や洗濯など、児童が体験的な活動を十分に行えるよう、昨年度まで行っていた「昔遊び」や「ニュースポーツ」などの夜の活動は行わない。
- ・全ての児童が料理に参加できるよう、調理は家庭科室で行う。包丁など足りない道具については町民センターから借りてくる。
- ・昨年度の朝食は短時間で準備できるメニューであったが、今年度は朝食も家庭科室を使い、ご飯とみそ汁を作る。
- ・宿泊場所は町民センターの他、最終日には校区内にある轟万太郎バンガローを利用する。

#### 平成18年度の通学合宿の写真



平成18年度から「下田っ子ふれあいデー」を実施。



バーベキューでは全て保護者に準備をしていただいた。



朝食は簡単にできるメニューが多かった。

## (2) 活動内容

期日 平成19年7月4日(水)～7月7日(土)

実施予定場所 町民センター、轟万太郎バンガロー

参加児童 下田北小4～6年生児童(18名)

日程(予定)	《7月5日…町民センター》	《7月7日》
《7月4日》	《7月6日…轟バンガロー》	
○開講式(北小) 16:30～		○起床 ～6:00
・開会	○起床 ～6:00	○朝食作り
・育友会長あいさつ	○集団登校 6:40～	○朝食、後片づけ
・校長あいさつ	○朝食作り 7:00～	○集団登校 ～7:40
・諸連絡	○朝食、後片づけ	～学校～
○夕食作り	～学校～	(下田っ子ふれあいデー)
(家庭科室) 17:00～		
○入浴		○閉校式 ～14:00
(温泉センター) ～20:00	○夕食作り 16:30～	・開会
○学習	○入浴 18:00～	・育友会長あいさつ
(町民センター) 20:00～21:00	○掃除	・校長あいさつ
○就寝 ～21:30	○洗濯 ～20:00	・感想発表
	○学習 20:00～21:00	・閉会
	・宿題、日記、自学等	
	○就寝 ～21:30	

## 活動の実際

### ① 料理

- ・児童が中心となり、作業を進めるようにする。教師、保護者は基本的な包丁の使い方や切り方などアドバイスは行うが、早く作業が進むように一緒になって作業を行うことはしなかった。
- ・児童を4つのグループに分け、各班ごとに料理作りから最後の後片付けまで行った。
- ・料理は学校の家庭科室で行った。
  - 全ての児童が調理に関わることができるように。
  - 町民センターから包丁を借り、一人一本使うことができるようにした。
- ・朝食も学校に登校し、ご飯と味噌汁を作った。
- ・郷土料理…地域の婦人会の指導を受けた。
  - 料理は、すり身の天ぷら・きんぴら・だご汁・酢の物。
- ・カレー作り…下田っ子ふれあいデーの昼食は、5・6年生が作り、地域の方や1～4年生に振る舞う。
- ・ジャガイモやタマネギなどの食材は、学校でとれた野菜も使った。



地域の方と作った郷土料理。左からすり身の天ぷら、だご汁、酢の物。



下田っ子ふれあいデーの様子と、そのとき作ったカレーとサラダ。



学級園で作った野菜。左からトマト、キュウリ、たまねぎ。

## ② 登下校

- ・基本的に集団登校、集団下校とした。
- ・登校時間は計画では6：40～としたが、登校後に朝食を作るため、準備ができしだい、登校した。
- ・起床も自分たちで目覚ましをかけて行った。起床時間が遅くなると、登校の時間に影響するため、時間が過ぎても寝ている児童は起こすようにした。



登下校の様子

## ③洗濯

- ・学校の洗濯機2台を町民センターへ移動した。
- ・入浴後、時間の空いた児童から進めていった。
- ・体育館の2階にロープを張り、物干し代わりに使った。
- ・洗濯物を洗う→干す→たたむまでを全て自分で行った。



④ 掃除

- ・入浴が終わりしだい、掃除を行う。廊下・トイレなど役割を割り振り、グループごとに作業を進めていった。
- ・最終日は、学校で閉校式を行った後、町民センターへ移動。施設の掃除とともに、学校へ運ぶ道具や自分の道具の片付けなどを行った。



掃除をしている様子。写真の他にも、廊下やトイレなども手分けして行った。

⑤ 学習

- ・20:00～21:00の1時間、集中して行った。
- ・4年から6年生まで同じ部屋で宿題や自学などを行うため、分からない問題がある場合は、同学年同士で、また上の学年が下の学年に教えていった。
- ・洗濯が終わっていない児童がいる場合、この時間も利用して洗濯を終わらせるようにした。



長机を並べ、学習を行っている様子。4～6年生までいるため、上学年に質問をしながら学習を進める様子が見られた。

⑥ 下田っ子ふれあいデー

- ・地域の団体「スパ8クラブ」に灯籠作りを教えてもらった。
- ・全校児童が「下田っ子ふれあいデー」に参加するため、通学合宿に参加していない1～3年生も一緒に地域の方とふれあうことができた。
- ・昼食は5・6年生が作ったカレーライスを食べる。
- ・作った灯籠は、お盆に地域で行われる灯籠流しに使った。



作り方を教えていただきながら作業を進めている様子。



下田っ子ふれあいデーの会食。5・6年生がカレーを作った。



8月に行われた灯籠流しの様子。児童が作った作品もこの日に流した。

⑦ 内田皿山焼見学

- ・ 下田北小学校から車で15分ほどの所にある内田皿山焼の作業の様子を見学した。
- ・ 移動手段として、校区の旅館が所有するマイクロバスを利用。
- ・ 内田皿山焼の歴史や絵付け作業の様子、仕事上の苦勞など、直接見聞きすることで、興味を持って学習を進めることができた。
- ・ 3学期の陶器絵付け体験につながる活動となった。



移動はマイクロバス。内田皿山焼の歴史や特徴を説明していただいた。



各工程の説明を受けながら見学した。そのときの様子が新聞に掲載された。

(3) 児童の感想（5・6年生の感想から）

私は、同じ班の人と協力して掃除などができました。料理も仕事を分担しながらできました。時間を考えて行動する事が少しできず、遅れたりしました。来年は、時間を見て計画的に行動していきたいです。一泊二日だったけど、自分の事は自分でできたし、できるようになったことがいっぱい増えました。来年は、6年生になるので、今年できなかったことができるようになりたいです。

通学合宿で、できるようになったことを普通の生活でも生かしていきたいです。そして、手伝いをいっぱいしたいです。

料理で材料を炒めるときに、炒めているものを上に上げることができたからよかったです。時間を考えて行動することが、少しできていなかった。また、洗濯の仕方は分かっていたけど、次の事を考えないでしてしまいました。来年は、そこを気を付けていきたい。

洗濯や料理とかは、家ではしたことがないけれど、通学合宿では、友達が教えてくれたので、ちゃんとできました。包丁の使い方などは、切っているうちに慣れました。時間を考えて行動するのは、みんなと協力しあいながらできました。これからの生活では、自分でできることはちゃんとして、分からない時は、考えて行動したいと思いました。

洗いのものや、洗濯が苦手だったけど、通学合宿を通してできるようになりました。でも、時間を考えて行動できていなかったのので、今度からは気を付けていきたいです。

料理や皿洗い、洗濯やそうじまで、全て自分たちでやったから、一泊二日でもとても疲れた。通学合宿を通して、「家の手伝いを、毎日1回はする。」という目標ができた（皿洗いや料理など）。みんなと協力して活動を進めていけたから良かった。

一泊二日だったけど、一泊目にお風呂に行ったり、そうじをしたりして楽しかったです。洗濯物を干しても乾かなかったです。内田皿山焼では、皿の歴史を知ったり、作る粘土がどうやってできるのかなど分かりました。昼食作りでは、僕の作ったみそ汁が無くなったので良かったです。

## 2 「生活科・総合的な学習の時間」での取組

### (1) 1・2年（生活科）の取組

#### ① 18年度の取組

#### 「ふれあおう秋のまき」 ～おじいちゃんおばあちゃんとふれあおう～

目標・昔の話を聞いたり、伝承遊びを教えてもらったりして、お年寄りの方と楽しくふれあう。

- 子どもたちの身近なお年寄りと交流し、「昔の遊びができるようになりたい」という願いが実現できるように、伝承遊びを通した体験活動を行った。
- 交流を通して気付いたことや楽しかったことなどを一人一人言葉で表現させた。
- おじいちゃんおばあちゃんから教えてもらってできるようになった遊びを、次は、自分たちが保育園の子どもたちに教えてあげたいという気持ちに高まった。
- お年寄りの方から子供の頃の話や遊びの様子を聞いたり、伝承遊びを教えてもらって一緒に遊んだりした後、一人一人に気付きや感想を言わせることで「知的な気付き」を広げ深めることができた。
- 交流の後は、感謝の気持ちを伝えるために、お礼の手紙を書いたり、「しらさぎフェスタ」に招待したりしてつながりを深めていった。



#### 「見つけよう冬のまき」～下田の冬を見つけよう～

目標・季節の変化にともなって、自然の様子や暮らしの変化に気付く。

- ・1年間の季節の変化や町の人々の暮らしの変化を実感的にとらえ、表現する。

下田の冬を探しに、町探検をする。→見つけたことをまとめ、発表する。

→探したのからみんなでくわしく調べたりやってみたいことを選び、計画を立てる。  
→やってみる。

- 子どもたちは、校区を流れる下津深江川で青のりを採られている人々に会い、青のりに興味をもって、自分たちも「つくってみたい。」という意欲がわいてきた。早速、青のりを採られていた地域のおばあちゃんに「作り方を聞きに行きたい。」ということになり、教えてもらいに行った。
- 地域の方から青のりの作り方を教えてもらい、さらに、乾燥させた青のりを細かくする作業を実際に体験させてもらった。「川で見た青のりは長いのに、どうして食べる青のりはパラパラなのか。」と疑問をもっていた児童が、青のり作りの工程を直接体験したことで、今まで不思議だったことが解決できたようだった。
- 川から採ってきてきれいに洗った青のりを頂いたので、学校に帰って天日に干し乾燥させて自分たちで青のり作りに挑戦した。
- 次に、自分たちで作った青のりを使って「お好み焼きを作りたい。」ということになりお好み焼きを作った。



- 活動後は、お礼の手紙を書いて届けると、今度は、おばあちゃんから返事の手紙が届き、絆が深まった。

② 19年度の取組

「うれしい春のまき」～学校たんけん～

- 2年生が案内役となり、クイズを出しながら学校内外を案内して回る。
- 1年生は、各先生方に自己紹介をして手作りの名刺を渡し、先生方からサインをしてもらう。



「うれしい春のまき」～下田をたんけんしよう～

- グループごとに町探検の計画を立てる。～下田の（魚・神社・旅館）をさがせ～
- 話し合ったことを探しに、町探検に出かける。



- わかったことや聞いたこと、心に残ったことなどをグループでまとめ、発表する。
- もう一度、下田のいいところをさがしに探検をする。（下田トンネルを通る）
- 探した「下田のいいところ」をカードに書いて、地図に貼る。

「川へ行こう」

- 下津深江川に行き、だくまや魚などの生き物をさがしたり、水遊びをしたりして楽しんだ。



「さがそう秋のまき」～バスにのろう～

- 路線バスに乗って、荅北火電の広場に行った。公共施設の利用の中での人との関わり、正しい利用のしかた、ルールやマナーを学んだ。



「ふれあおう冬のまき」～温泉へ行こう～

- 温泉センターに行き、地域の歴史ある下田温泉のよさを調べ、そこで働く人々の思いを聞いた。また、実際に温泉に入って、公共施設を利用するときのマナーについても学習してきた。

「あそぼう冬のまき」～おもちゃをつかってあそぼう～

- 身近なお年寄りを招いて「伝承遊び」を教わりながら遊んだ後に、今度は身近にある物を使って遊ぶ道具を自分達の手で作り、遊び方やルールを工夫して楽しく遊んだ。

- その後、保育園の子どもたち（年長児）を自分達で作った「おもちゃランド」に招待して、手作りおもちゃと一緒に遊びながら交流を深めた。



(2) 3. 4年の取組（平成19年度の取組）

「人にやさしい町」 福祉・健康

単元の目標

地域で暮らすお年寄りや体に障害のある方との交流を通して、相手の立場や気持ちを考え行動するとともに仲良く助け合って生活しようとする態度を育てる。

- 「人にやさしい町」とは、どんな町なのかについて考える。  
やさしいとは、どういうことか、「人」とはどのような人をさすのかについて話し合い、児童は、高齢者や障害者にとって住みよい町なのか調べたいという思いを持った。
- 「年をとるとは」「体が不自由とは」どういうことなのか、考える。  
聞き取り調査を行ったり、予想を立てたり、児童の祖父母の話を出し合ったりしながら話し合った。また、どのような体験活動を行ったらやさしい町づくりの学習につながるのか考えを出し合った。
- 高齢者疑似体験やアイマスク体験、車いす体験、点字体験などを行う。  
校舎内外で体験活動を行い、不便な場所に気づき、高齢者や障害者の思いなどについても考えさせる。アイマスク、車いす体験では、介護者を付け、声のかけ方などについても考えさせた。児童は、学校だけでもたくさんの段差があること、ひとりでは、不安であるけない場所がたくさんあること、目の不自由な方に対しては、具体的でわかりやすい言葉で声をかけることが相手を安心させるのではという意見を持つことができた。



- 下田北は、高齢者や障害者にとって「やさしい町」になっているのかというテーマで学習することを確認し、学習計画を立てる。
- 下田の町に出て、調査活動を行う。
  - ・町を歩きながら、危険な場所や町作りで工夫してある場所などを見つける活動を実施した。児童は、高齢者や障害者の視点で町を歩くことで、今まで気づかなかった場所に段差が多いこと、信号機や横断歩道が少ないことなど気づいていた。この学習からバリアフリーについて知り、インターネットや書物で調べる活動につながった。
  - ・バリアフリーの施設のある公共の施設を調べる活動を実施した。  
温泉センターや海王亭デイサービスの施設を調べた。
  - ・見る、聞く活動は、たくさんのことを学び、新たに調べたいことなども浮かんできているようだった。



下田北にも、段差をなくしたスロープ付きの歩道があること、点字付きの券売機があること、車いす用のトイレなどが設置されていることにきづき、下田北にも人にやさしい町作りが行われていることを知った。

また、他の町にも同じような工夫があることにも気づいた。

- 調べたいことを整理し、地域にすんでおられる視覚障害者の方に話を聞きに行く。児童は、視覚障害者の方に、下田の町で生活しにくい場所はないのか、盲学校での生活について、点字について、生活用品などについて質問した。いろいろな生活用品に点字や音声で知らせる仕組みがあることを知り、驚いていた。



- 調べたことをまとめ、発表する。  
3年生は総合学習がはじめてなので、国語の学習と関連させて新聞作りという表現方法でまとめることにした。  
更に、新聞にまとめたことを全体に発表するので、4年生と二人組で発表の練習をさせた。児童は、新聞にまとめた内容からクイズ形式で発表するなどの姿が見られた。
- 発表後、それぞれに学習のまとめとして感想を書かせ、「人にやさしい町」にするために更に自分たちにできることはどんなことがあるのか考えた。  
児童は、町で困っている人を見かけたら、相手の気持ちを考えながら、手助けできることはしたいという思いを持つことができた。観光客の多い下田北なので、もっと車いすの人のために、歩道を広くしたり、車いす用トイレを増やしたり、段差をなくす取り組みが必要だと実感したようであった。
- 海王亭、保育園での交流活動（ボランティア活動）を計画する。  
児童は、学習したことを生かして海王亭に来られているお年寄りの方に音楽発表をしたり、ゲームをしたりしながら楽しい時間を過ごしてもらおうと計画した。  
地域の高齢者の方と交流していけば、互いに声をかけやすい関係作りができるという思いからである。  
また、保育園との交流では、新1年生が、学校への期待感を持ち、みんなで仲良く小学校でも過ごせるようにという思いで活動を行った。準備段階では、保育園の子どもたちが楽しめるようにアイデアを出し合って、話し合いを進めていた。
- 活動後は、学習を振り返り感想を書いたり、これからの生活にどのように生かしていくのかを出し合ったりした。

(3) 5・6年生の取組

平成18年度の取組

「下田よかところ再発見」

単元の目標

校区のよさについて興味・関心を持ち、調査・体験的な活動を行う中で、主体的な態度と問題解決の能力を育てるとともに、自分たちの気づかなかった校区のよさを発見し、ふるさとを大切に想う態度を育てる。

① 1学期

- ・旅館や温泉センターに行き、従業員や観光客の方に下田に関する調査（下田の良いところ・下田のよさを伝えるためにどのような工夫をしているか等）を行った。
- ・調査結果をまとめ、グループごとに発表した。
- ・旅館を運営されている地域の方をゲストティーチャーに招き、下田への思い・下田北小児童への願いなど話していただいた。



調査活動の様子。旅館や温泉センターで、インタビューやアンケートをとった。

② 2学期

- ・「下田のよさを多くの方に知ってもらおう。」ことを目標に、自分たちにできることを考えた。
- ・下田のよさを伝えるホームページを作るグループと、下田のCMを作るグループに分け、活動を行った。それぞれ友達とアイデアを出し合い、取材を行い、作品を作っていた。
- ・完成した作品はRKKホームページコンテストに応募した。



朝市取材の様子

③ 3学期

- ・近くの海岸でたくさん拾った天草陶石を紙ヤスリできれいに削ったり、ドリルで穴を開けたりと簡単な加工を施し、ペーパーウェイトやペン立てなどをつくった。
- ・完成した作品は、下田北地区の全ての旅館と温泉センターに置いてもらい、観光客に自由に持ち帰ってもらえるようにした。また、作品と同じ場所に官製はがきを置き、後日感想を書いて学校へ送ってもらえるようにした。

(右) 小物を持ち帰られた方からの手紙

(左) 小物を旅館に配布したときの様子が熊日新聞に掲載 (H19. 3. 7)



## 平成19年度の取組

「私たちにできることは」

### 単元の目標

修学旅行を通しての平和学習、その後の調べ学習により、世界の諸問題を知るとともに、自分たちにできる活動を考え、実施していく中で学習に対する主体的な態度と問題解決の能力を育てる。

### ① 1学期の取組

- ・長崎修学旅行の事前学習として、社会の教科書・資料集を用いて、長崎・広島への原爆投下、原爆の被害の大きさ、今もその後遺症に苦しんでいる人々がいることを学んだ。
- ・修学旅行の1日目に平和学習を行った。山里小学校や原爆資料館の資料を見たり、被爆された方の話を聞いたりした。
- ・修学旅行前後の学習を通して学んだことを広用紙にまとめ、発表した。



修学旅行では、山里小学校や如己堂見学、平和公園での平和集会などを行った。

### ② 2学期・3学期の取組

- ・「世界を100人の村にたとえたら」を資料に用い、食糧や水が手に入らず苦しむ人や、命の危機にさらされている人の割合。持つ者と持たざる者の差がとて大きいことを学ぶ。
- ・グループを4つ作り、世界の諸問題を少しでも解決できるよう、自分達にできることはないかそれぞれ考えた。
- ・活動計画をたて、計画に沿って各グループ活動を実施した。
  - A班…校区の清掃活動、校区の花壇に花を植える活動を実施
  - B班…デイサービスを行っている校区の施設に行き、地域のお年寄りとおふれあった。学校の畑で野菜を育て、地域のお年寄りに配った。
  - C班…ゴミを集め、それらを生かし、おもちゃや飾りなどを作った。校区の花壇に花を植える活動を実施。
  - D班…書き損じハガキやユニセフ募金を集めた。募金や貧富の差に関するアンケートをとり、分かったことや考えたことをまとめた。



ゴミ拾い



お年寄りとのふれあい



地域への花植え

#### (4) 全校での取組

##### ① 1 学期

###### ○芋苗、野菜苗、花の苗、種まき

地域の方に、芋の植え方を教わり縦割り班で、芋植えを行った。

各学級では、児童が育てたい野菜や通学合宿での食材にするための野菜を中心に植え付けを行った。

また、各学級で植えたい花を決め、種まき、栽培を行った。

###### ○そうめん流し大会

竹で制作したソーメン流しの道具で、児童、保護者、職員でそうめん流しを行った。

###### ○校内キャンプ

高学年では、テントを自分たちの手ではり、食事の献立を考えて食事の準備を行うなどしてキャンプを行った。



芋苗の植え付け



花の種まき



そうめん流し



野菜の収穫



校内キャンプ

##### ② 2 学期

###### ○芋の収穫・焼き芋

縦割り班で、芋の収穫を行う。芋の掘り方を、地域の方に教わる。

除草作業や、植え付けなどでお世話になった方へお礼の手紙を渡した。

収穫した芋は、全校で焼き芋作りを行った。

###### ○三校集合学習（第1回目6／20 第2回目11／14）

天草町の小規模校三校が集まり、他校の児童と学習したり、休み時間を共に過ごしたりしながら、交流を深めた。

回をかさねるたびに、他校の児童に積極的に声をかけて遊ぶ姿や学習中など活発に学習をする姿が見られるようになった。

○しらさぎフェスタ

児童が考えた出店で、地域の方々とのふれあいを行った。  
的当て、射的、手作りビーズ、手作りリースなど、児童各自のアイデアで地域の方々とのふれあった。

○クラブ活動 地域の伝統料理作り

ゲストティーチャーを招き、自分たちの育てた芋を使って「せんだご汁、がねあげ作り」を行った。調理から後かたづけまで、すべて自分達で行った。



芋の収穫



しらさぎフェスタ



伝統料理作り



焼き芋



集合学習



伝統料理「がねあげ」

③3学期

○陶器絵付け体験

天草陶石を使った皿に、全校児童で絵付けを行った。



○自然体験活動



### III 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

##### (1) 仮説1から

###### ①通学合宿を通して

- 料理や洗濯などの経験をすることにより、自立性が養われ、自分たちで活動を進めようとする姿が見られた。
- 郷土料理作りや学校で栽培した野菜を使ってのカレー作りを通して、4～6年生の全児童が調理体験を行うことができた。

###### ②生活科・総合的な学習の時間を通して

- 地域の人や自然との関わりを通じた体験活動を多く取り入れたことで、子どもたちの興味・関心が高まり、進んで活動しようとする意欲や態度が育った。
- 国語との関連を深め、体験活動を重ねていくことで、上手に質問ができるようになったり、恥ずかしがらずに自分の思いを伝えることができるようになってきた。
- 擬似体験や車いす体験など感性を揺さぶる体験活動を取り入れたことは、高齢者や障害者の思いに気付き、声のかけ方などを考えさせるのに効果的であった。
- 調べ学習の時間を十分に確保することで、自ら学ぶ姿勢が育ち、地域を歩きながらの調査活動により、地域の実態や課題に気付くことができた。
- 新聞やポスター作成、発表などを通して、学習の成果をまとめたり伝えたりすることができた。

##### (2) 仮説2から

###### ①通学合宿を通して

- 洗濯、料理などの経験を通して、家族に対する感謝の気持ちが見られた。
- 「下田っ子ふれあいデー」で地域の方々で作った灯籠は、お盆に行われる地域の灯籠流しで地域の川に流した。地域の行事に参加するよいきっかけとなった。

###### ②生活科・総合的な学習の時間を通して

- 地域の方々との連携を密にしていたことで、人と人とのふれあいを知り、活動後の手紙の交換等を通してより一層絆を深めることができた。地域の方々との交流活動は、心が和み、温かい雰囲気の中で学習を展開することができた。
- 講話や取材活動などで地域の方々の協力を得ることにより、1年間子どもたちの意欲が持続した。地域の方々にいろいろ教えていただくことは、子どもたちの意欲・関心を高めるのに有効な手段である。
- 「しらさぎフェスタ」を地域の方々との交流の場、地域へ向けた発信の場とし、生活科や総合的な学習の時間に学んだことや体験したことを紹介したり、英語劇を通して英語活動の成果を発表したりすることができた。

#### 2 今後の課題

- 19年度の通学合宿は、雨の影響を受けて予定していた活動ができなかったもので、実施時期を見直していきたい。また、次年度に活かすための記録を残す必要がある。
- 洗濯に時間がかかり過ぎた。洗濯機の台数不足や子どもの経験不足などが挙げられる。
- 自分でテーマを決めて、見通しをもって追究していくことができる「総合的な学習の時間」にしていかなければならない。
- 多様な表現方法や教科の時間に学んだ学習方法が総合的な学習にも活かされるような各教科とのつながり、評価についても、もっと研究する必要がある。

## おわりに

私たちは、豊かな心を育み、たくましく生きる子どもを育てるために、子どもと共に活動する中で、一人一人の気付きを大切にし、その気付きをいかに広げ、考えとして深めさせていくか、また、子ども自身が自分の考えに基づいてどのような形で実践に移していくか、どの場面でその変容を見取っていくか等、議論を繰り返しながら主題に迫ろうと努力してきた。

子どもたちは、保護者や地域の支援・協力を受けながら、下田北小学校ならではの「通学合宿」や「下田っ子ふれあいデー」「しらさぎフェスタ」「運動会」など、豊かな体験活動の中で成長してきた。

私たち教職員も、教児一体となった様々な取り組みの中で、日々の実践を振り返り、教育の原点に立ち戻って、「教師は子どもと共に在る」ことを一層確認することができた。

結果はすぐに出るものではないかもしれないが、実践の積み重ねと教師の指導力の向上により、その変化は、子どもたちに必ず還っていくものと確信している。

なお、本年度の研修では、天草市教育委員会の学校訪問指導をはじめ、昨年度に引き続き熊本市立白山小学校の才所征司先生に情報教育推進についての講話をいただくなど、充実した研修を行うこともできた。

今後も、各方面からのご指導を真摯に受け止め、残された課題の解決に向け更に研鑽に励んでいきたい。

平成20年3月

教頭 守田 俊昭

## 【 研究同人 】

### < 平成18年度 >

校長	荒尾	隆明
教頭	野崎	啓子
1・2年	濱本	千尋
3・4年	田淵	晶子
5・6年	森田	雄治
養護	浦部	美貴子
事務	平山	民枝
主事	股野	梨江子

### < 平成19年度 >

校長	荒尾	隆明
教頭	守田	俊昭
1・2年	濱本	千尋
3・4年	小野	直子
5・6年	森田	雄治
養護	甲田	育美
事務	西本	正子
主事	股野	梨江子